

京ビジネス 手帖

～ともに描く経営の未来～



#経営計画策定支援 #資金調達

人気洋食店の

飛躍を後押しした伴走支援

―協調融資で実現した理想の移転オープン―

突然のブレイクを追い風の 移転を決断

コロナ禍に補助金申請の相談で訪れたことから、井上さんと京都商工会議所との関係は始まった。コロナ禍が過ぎ、地元客を中心に人気が高まった同店に、大きな転機が訪れる。2024年3月、著名なタレントがYouTubeチャンネルで同店の人気メニューを紹介。さらに人気に拍車がかかり、連日長蛇の列ができるようになった。

当時はカウンター6席の小さな店舗だったことから、井上さんは移転を決意。設備や改装には多額の資金が必要なため、再び商工会議所へ相談を持ち込んだ。

妥協なき計画で導いた協調融資

担当の小林経営支援員(以下、

小林)は、面談や聞き取りを重ね、日本政策金融公庫の「マル経融資(小規模事業者経営改善資金)」の利用を提案。さらに民間金融機関を組み合わせた「協調融資」の道筋を立てた。

そこから約3カ月、事業計画のブラッシュアップが小林との間で毎週のように続いた。検討項目は多岐にわたったが、精度を高めた結果、希望額どおりの融資が決定。不安な時期もあったというが、井上さんは「小林さんのお店」と言っても過言ではないほど、細部まで一緒に考えてくれたからこそ実現した店舗です」と振り返る。

理想の店舗で新たなステージへ

相談開始から約1年を経て融資が実行され、2025年11月に移転オープン。これまで少なかった



代表
井上 正大さん

小林経営支援員

家族連れや高齢者といった幅広い客層を意識し、内装やメニューの開発を進めることができた。理想の店舗づくりが実現した背景には、綿密に練り上げた事業計画がある。井上さんは、「商工会議所の方々皆さん、本音で相談に乗ってくれるので信頼できる。どう進めるべきか悩む中で、さまざまな方向性を示してもらえたことが非常にありがたかった」と話す。また、小林も「何でも気軽に相談してもらえ、関係性が何より大切。これからも継続してコミュニケーションを重ねていきたい」と語った。

詳細はWebから
ご確認
いただけます



土壁を残した空間に、寺院の庭を借景とした開放的な大窓を設置。家具職人の友人に依頼した一点ものの家具を揃えた。▶

